

地域でより良く生活していくために

～居住地校交流を通して～

堺市立 上神谷支援学校 伊藤 雄真

1. はじめに

本校が創立され4年が経ちました。現在は小学部79名、中学部88名、計166名の児童・生徒が在籍しており、堺市の西区、中区、東区、南区、美原区から通ってきています。自分の住む地域（居住地）から離れて通ってくる子どもたちが多いため、地域の小・中学校に通う子どもに比べ、近くに住む同年齢の友だちと接する機会が少なくなっています。自分の地域の子どもたちとの関わりを持つことで、散歩に出ているときに話しかけてもらえたり、公園や自宅で一緒に遊んだりする友だちができたりと、地域で出会い楽しく過ごすことができるようになると思います。

そこで、今回は子どもたちが地域でより良く生活していくため、本校で取り組んでいる居住地校交流について紹介します。

2. 居住地校交流について

居住地校交流とは、本校に在籍する児童・生徒が、自分の住んでいる地域の子どもたちと交流する活動です。上神谷支援学校では年度当初の家庭訪問の際、保護者に交流への参加希望を確認し、5月下旬ごろに各居住地校へ「居住地校交流のお願い」を送付させていただいています。

その後、居住地校からそれぞれの学校の実態に合わせた内容で交流学習の案内が上神谷支援学校に届きます。交流学習の内容は大きく①学校行事への招待、②支援学級との交流、③同学年の子どもとの交流の3つに分けられます。案内を頂いた後は交流担当から担任へ、担任から保護者へ伝えられ参加の有無が確認されます。参加であれば参加の旨を居住地校に伝え、交流が実施されます。

交流の当日は保護者の引率が原則となっています。本校職員も可能であれば付き添い、活動の支援や当該児童・生徒の学校での様子を紹介しています。

3. 事例の紹介

(1) 学校行事への招待

体育祭や子ども祭りへの参加などがあります。大きな学校行事では多くの保護者や地域の方が来られており、上神谷支援学校の子どもが地域に住んでいることを知ってもらえるよい機会です。体育祭では本部テントの近くに席を確保して頂いたり、支援学級や保健室を控室にしてもらうなどの配慮もして頂いたりしています。

小学部 A さんの事例（〇〇小学校）

場所	運動場
内容	体育大会の見学

保護者の感想	<p>※1AM 中、※2児童デイに行ったので、お昼からテントの席で観覧させていただきました。手に杖やゴムを持ったりしていたので、母と一緒に少しの間座ることができました。(初めてにしては上出来だと思っています)</p> <p>何か参加できたらなと少しは思ったりもしていましたが、又、交流の機会があったら参加したいと思います。</p> <p>※1…午前 ※2…児童デイサービス(学校に通う障がい児を対象に、放課後や夏休みなどの長期休暇に、生活能力の向上ための訓練や地域交流の機会の提供などを行います。現在は、「放課後等デイサービス」と名称が変わっています。)</p>
--------	---

(2) 支援学級との交流

内容は朝の会や誕生会、プールなどの子ども同士が楽しく関わる内容や、調理実習など保護者も一緒に活動出来る内容もあります。支援学級との交流は、小学部の児童にとっては就学前施設の時の、中学部の生徒にとっては小学校の時の友だちがいるなど交流を始めるのにとっても参加しやすい設定だと思います。また、長期休業中に実施される時は本校職員も多く付き添っています。

小学部 B さんの事例 (△△小学校)

場所	家庭科室、パソコン室、プール、
内容	<p>①カレーライス作り 材料を切る・洗う。煮込みは保護者。</p> <p>②パソコン カレーが出来上がるまでの間、各自1台使用して自由にパソコンをする。先生の支援あり。</p> <p>③プール 昼食後プール遊び。子どもには先生が付き、保護者は地域の保護者と交流。</p>
保護者の感想	<p>Bが小1の時から必ずお誘いをいただき、去年は私の仕事の都合で不参加でしたが、ほぼ毎年参加している親子共々いつも楽しみにしている夏のつどいです。今年は上神谷のN先生がお越しくださり、カレー作りの時など常にご支援くださりありがたい思いがいっぱいです。Bにとっては楽しいことばかりのつどい。カレー、パソコン、プール全部大好きですとニコニコでした！</p> <p>同じ学年の〇〇さんも一緒に心強かったと思います。うれしい日をたくさん先生の先生、保護者の方々、子どもたちからもらいました！</p>

(3) 同学年の子どもとの交流

同学年の子どもとの交流では、通っている学校は違いますが「同じ地域に住む友だち」という気持ちを育てていきたいと思っています。居住地校の子どもたちには「〇〇さんは上神谷支援学校に通

っているけど同じ地域に住む友だち」、本校の子どもたちには「□□学校に行ったら近くに住む友だちがたくさんいる」という気持ちです。下記に一つの事例を紹介したいと思います。

小学部 C さんの事例（□□小学校）

場所	支援学級、体育館など	
内容	<p>（□□小学校子ども祭り）</p> <p>①本人へ招待状が届く</p> <p>②当日、支援学級で待機している本児のところへ迎えに来てもらう。</p> <p>③支援学級担任に付添ってもらいながらゲームに参加。優先して参加させてもらう。</p>	<p>（4年生に対しての啓発授業）</p> <p>①支援学級担任から、本校担任へ「本児を紹介する啓発授業をしてほしい」という依頼がある。</p> <p>②□□小学校に上神谷支援学校の担任が出向き、本児のことや支援学校のことについて授業を行う。</p>
保護者の感想	<p>4年生から招待状をいただきました。当日も、支援学級で遊んでいた C の所にお誘いのカードを持って子どもたちが来てくれました。C が4年生の出し物を回る時も順番を待たないので、先にさせてくれました。4年の担任の先生方も C がゲームに参加できるように、そっと支援して下さいました。ずっと支援学級の先生もついてきてくれ、毎回必ず校長先生も顔を出してくれ、学校全体で迎え入れてくれている様でとてもうれしかったです。</p> <p>今迄、気付かなかったのですが、子どもに呼ばれても反応も少なかったようですが、今回は呼ばれると一応チラッと相手を見ていました。相手の子がハイタッチをしようと手を出すとちゃんとハイタッチを返していました。今迄の交流のつみかさねが実になったのかなと思います。支援学級の先生が作った写真カードを使って自分の要求も出せました。4年生に声をかけてもらえるだけでも、上神谷では経験できないことなので、年に何度も交流の機会を作ってください感謝です。</p>	
居住地校の 子どもの感想	<p>この前は上神谷支援学校と C 君のことをくわしくおしえてくださってありがとうございました。自閉症は「光とともに」という本でしています。この病気は思うようになおらないのでかわいそうにおもいます。でも、そんなきもちにならずにおなじようにせっしてあげたいです。わたしは大きくなったらデザイナーになりたいけど、だい2しぼうがいっぱいあります。その中に上神谷支援学校の先生になりたいこともふえました。おしごとがんばってください。</p> <p style="text-align: right;">（4年生）</p> <p>上神谷支援学校の事を教えてくれてありがとうございました。</p> <p>今度、C 君に会ったらハイタッチであいさつをしたいです。上神谷支援学校はいい学校だなと思いました。C 君は学校はちがうけどほとんどおなじことをしているんだなと思いました。</p> <p style="text-align: right;">（4年生）</p>	

この交流は二年前に行われた交流ですが、現在も散歩していると「あ、Cさんや！」と話しかけてもらえたそうで、お母さんは嬉しそうに話してくれました。

本校の児童・生徒の実態や保護者の願いは様々です。集団の苦手な子どもには、人数の少ない支援学級との交流から始めてもらえたらという思いがあります。段階を踏むことで少しずつ大きな集団にも参加できると思います。反対に子どもが人と関わるのが大好きで、たくさんの友だちに知って欲しいと同学年の大きな集団で密な交流を希望する保護者の方もいます。また、きょうだいのことを気遣って交流に消極的な方もいます。それぞれの交流の形態や内容については、居住地校交流の先生方と本校職員(担任)とが連絡を取りながら、交流が有意義な場になればと考えています。

4. おわりに

本校の子どもたちは学校を卒業すると、それぞれの地域で長い間生活していくことになります。小さい時から地域の友だちと出会いを重ねていくことは、地域で生活していく上でとても大切な「お互いを知る」ことにつながります。本校では、居住地校交流によって学齢期段階から地域との関わりを持たせ、友だちやその子のことを知っている人をもっと増やし、地域へ関わろうとする気持ちを育てていきたいと考えています。

これからも子どもたちが地域でより良く生活していけるよう、堺市の小・中学校のご協力を得ながら居住地校交流がさらに発展・拡大していくように取り組んでいきたいと考えています。

参考

「上神谷支援の交流図」

